

授業概要

本演習の目的は、「日商簿記検定 2 級」の合格レベルに達することです。受講条件として日商簿記 3 級合格または合格水準の学力が前提です。春期は、日商 2 級の工業簿記を学びます。内容は費目別、部門別、総合原価、標準原価、直接原価計算を習得します。秋期は商業簿記を学習します。内容は株式会社会計、剰余金、本支店会計と連結会計などを主に問題形式で学びます。授業は、日商簿記検定の統一試験（6 月、11 月、2 月）に沿った進度で行います。なお、常時受験可能な日商のネット受験も推奨します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：勉強方法&小テスト実施	第 16 回	ガイダンス：勉強方法&小テスト実施
第 2 回	日商簿記 2 級工業簿記：目次の体系化①	第 17 回	日商簿記 2 級商業簿記：目次の体系化①
第 3 回	日商簿記 2 級工業簿記：目次の体系化②	第 18 回	日商簿記 2 級商業簿記：目次の体系化②
第 4 回	日商簿記 2 級工業簿記：費目別計算①	第 19 回	日商簿記 2 級商業簿記：
第 5 回	日商簿記 2 級工業簿記：費目別計算②	第 20 回	日商簿記 2 級商業簿記：
第 6 回	日商簿記 2 級工業簿記：費目別計算③	第 21 回	日商簿記 2 級商業簿記：無形固定資産
第 7 回	日商簿記 2 級工業簿記：個別原価計算①	第 22 回	日商簿記 2 級商業簿記：外貨換算会計
第 8 回	日商簿記 2 級工業簿記：個別原価計算②	第 23 回	中間試験
第 9 回	日商簿記 2 級工業簿記：個別原価計算③	第 24 回	日商簿記 2 級商業簿記：株式発行
第 10 回	日商簿記 2 級工業簿記：総合原価計算①	第 25 回	日商簿記 2 級商業簿記：費用収益の認識
第 11 回	日商簿記 2 級工業簿記：総合原価計算②	第 26 回	日商簿記 2 級商業簿記：税効果会計
第 12 回	日商簿記 2 級工業簿記：総合原価計算③	第 27 回	日商簿記 2 級商業簿記：本支店会計
第 13 回	日商簿記 2 級工業簿記：標準原価計算①	第 28 回	日商簿記 2 級商業簿記：連結会計資本
第 14 回	日商簿記 2 級工業簿記：標準原価計算②	第 29 回	日商簿記 2 級商業簿記：連結会計成果
第 15 回	日商簿記 2 級工業簿記：直接原価計算	第 30 回	日商簿記 2 級商業簿記：製造業会計
春期	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

- ・中級レベルの商業・工業簿記を習得し、「日商簿記 2 級」のネット受験合格レベルに到達すること。

履修上の注意

- ・正課授業科目の「原価計算論Ⅰ」、「原価計算論Ⅱ」、「環境会計論」は、必ず履修登録すること。
- ・エクステンションセンターの「日商簿記検定 2 級講座」を受講のこと。
- ・日商簿記検定 2 級の DVD 講座を推奨します（情報メディアセンターにある）。
- ・試験による座席指定制度導入。

予習復習

- ・毎日、3 時間は簿記の問題集を練習すること。日商簿記 2 級合格レベル達成の学習時間は約 400 時間。
- ・OutLook 予定表（カレンダー）に日々の学習時間を記録し、時間管理の徹底をすること。

評価方法

- ・中間試験 50%・定期試験 50%で評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

- | | |
|----|---|
| 春期 | 1. TAC(株) 編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト日商簿記 2 級工業簿記 最新版』TAC 出版 |
| | 2. TAC(株) 編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング日商簿記 2 級工業簿記 最新版』TAC 出版 |
| 秋期 | 3. TAC(株) 編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記 最新版』TAC 出版 |
| | 4. TAC(株) 編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記 最新版』TAC 出版 |
| 通年 | 5. TAC(株)『よくわかる簿記シリーズ '21 年 11 月検定対策 合格するための過去問題集 日商簿記 2 級』TAC 出版 |

授業概要

この演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原則、企業会計基準の考え方や用語解説などである。演習の進め方は、基本的には専門書の輪読する方法をとるが、新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。秋期の演習は、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

また、各期3回以上のレポートの提出を求める。

授業計画

第 1 回	会計学の意義	第 16 回	純資産の測定と認識 1
第 2 回	複式簿記の原理 1	第 17 回	純資産の測定と認識 2
第 3 回	複式簿記の原理 2	第 18 回	財務諸表の作成と解説 1
第 4 回	財務諸表の読み方 1	第 19 回	財務諸表の作成と解説 2
第 5 回	財務諸表の読み方 2	第 20 回	財務諸表の作成と解説 3
第 6 回	資産の測定と認識 1	第 21 回	レジュメ作成と発表の仕方 1
第 7 回	資産の測定と認識 2	第 22 回	レジュメ作成と発表の仕方 2
第 8 回	資産の測定と認識 3	第 23 回	レジュメ作成と発表の仕方 3
第 9 回	負債の測定と認識 1	第 24 回	各自のテーマの報告と討論 1
第 10 回	負債の測定と認識 2	第 25 回	各自のテーマの報告と討論 2
第 11 回	収益の測定と認識 1	第 26 回	各自のテーマの報告と討論 3
第 12 回	収益の測定と認識 2	第 27 回	各自のテーマの報告と討論 4
第 13 回	費用の測定と認識 1	第 28 回	各自のテーマの報告と討論 5
第 14 回	費用の測定と認識 2	第 29 回	各自のテーマの報告と討論 6
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・簿記知識は日商簿記3級以上の水準に達すること。
- ・発表レジュメの作成及び発表能力の向上

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジュメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：会計学入門
 - ・著 者 名：桜井久勝
 - ・出版社名：日本経済新聞社
- 必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

グローバル化の進展により、今日では、地球がより小さく感じられるようになってきました。様々な分野において、日本国内のみではなく、諸外国も含め、世界レベルで互いに関連し合う社会となってきたと言えます。ヒト、モノ、カネ、ジョウホウ等が、地球規模で行きかう本格的な時代の到来となりました。各ビジネスにおいても、世界に関する知識が不可欠となってきています。本演習では、世界を視野に入れた重要なキーワードについて理解を深め、今後の勉強や論文作成、就職等に役立つ基礎的知識を習得すること目的とします。

授業計画

第 1 回	世界地図を見つめるー日本の位置と大きさは？	第 16 回	政治
第 2 回	人口分布、高齢化	第 17 回	経済
第 3 回	健康指標（平均寿命、健康寿命等）	第 18 回	産業
第 4 回	病気の特徴ー生活習慣病、感染症等	第 19 回	教育
第 5 回	世界の保健・医療システムー病院、診療所等	第 20 回	文化
第 6 回	宗教・人種	第 21 回	アジア
第 7 回	貧困、格差社会	第 22 回	オセアニア
第 8 回	ジェンダー	第 23 回	ヨーロッパ
第 9 回	インバウンド、アウトバウンド	第 24 回	北欧
第 10 回	ツーリズム	第 25 回	ロシア
第 11 回	自然環境、気候	第 26 回	北米
第 12 回	栄養、食料	第 27 回	南米
第 13 回	運動、スポーツ	第 28 回	アフリカ
第 14 回	歴史	第 29 回	北極・南極
第 15 回	エネルギー	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。
- ・グローバルな視点で物事を考えることができる。
- ・各課題に対し、深く考察することができる。
- ・世界各国の実情に関する理解を深める。

履修上の注意

好奇心旺盛な学生の皆さんを歓迎します。

予習復習

自身の担当部分についてのレジュメの作成に関する予習はしっかりと行い、他の仲間の発表内容については復習をする習慣を身に付けて下さい。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

- ・教科書名：今がわかる 時代がわかる 2021 年版 世界地図
- ・著 者 名：成美堂出版
- ・出版社名：
- ・出 版 年（ISBN）：

授業概要

春期には、経営学の基礎あるいは入門を学び、秋期には、企業活動の国際化、国際経営の基礎を学びます。

① 食料品、衣類など我々の生活に必要な物的な財貨、各種の便益（サービス）などを生み出し、これを商品として消費者などに提供することが経済活動であり、これを担っているのが企業です。経営学は企業について学ぶ学問です。春期には、まず経営学とは何か、そのごく基本的な部分を学習します。

② 日本、アメリカなど主要国に所在する大企業の多くは、今日、本国のみならず諸外国でも活発に生産、販売などの活動を行っています。世界各国で活動をおこなう企業は、世界企業、多国籍企業などと呼ばれています。秋期には、企業の活動の国際化、世界企業による国際経営について、基礎から学び、小論文の作成・報告を行います。

授業計画

第 1 回	春期のゼミの進め方—経営学を学ぶ	第 16 回	秋期のゼミの進め方—国際経営を学ぶ
第 2 回	戦略とは何か（その1）—基礎	第 17 回	多国籍企業の経営とは
第 3 回	戦略とは何か（その2）—応用	第 18 回	国際経営戦略
第 4 回	戦略とは何か（その3）—発展	第 19 回	国際マーケティング
第 5 回	差別化とは何か	第 20 回	海外生産活動
第 6 回	企業経営と差別化戦略	第 21 回	技術移転と海外研究開発
第 7 回	現代企業経営と差別化戦略の高度化	第 22 回	国際経営マネジメント
第 8 回	ビジネス・システムとは何か	第 23 回	小論文の作成について（ガイダンス）
第 9 回	現代企業とビジネス・システム	第 24 回	北米・欧州のなかの日本企業
第 10 回	ビジネスシ・システムの高度化	第 25 回	アジアのなかの日本企業
第 11 回	事業の多角化とは何か	第 26 回	新興国市場と日本企業
第 12 回	現代企業と事業の多角化	第 27 回	サービス企業の海外進出
第 13 回	企業構造の再編成	第 28 回	論文発表会（その1）
第 14 回	企業経営の国際化	第 29 回	論文発表会（その2）
第 15 回	現代企業の国際化戦略	第 30 回	論文発表会（その3）

到達目標

経営学および国際経営の基礎を学ぶことで、グローバル化をたどる現代企業について関心を持ち、現代企業の現状と諸問題について、ある程度自分で理解できるようになることを目標とします。これらを踏まえて小論文（基礎演習修了論文）を作成し、報告してもらいます。

修上の注意

病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。

予習・復習

以下のテキストを用いて学習・討論します。必ず予習してください。授業の後は、テキストをもう一度読み直し、復習してください。なお、テキストについては、変更することもあります（その場合は、早めに連絡・掲示します）。テキストの変更に伴い授業の進め方も変わることがあります。

評価方法

テキストの報告50%、小論文の作成・発表30%、ゼミへの貢献（学習・討論への参加の積極性）20%で評価します。

テキスト

春期

- ・教科書名：ゼミナール 経営学入門（第3版）
- ・著者名：伊丹・加護野
- ・出版社名：日本経済新聞社
- ・出版年（ISBN）：2003 年刊

秋期

- ・教科書名：国際経営（第5版）
- ・著者名：吉原英樹
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年（ISBN）：2021 年刊

授業概要

テーマ：マーケティングおよびスポーツマーケティング

この演習は、マーケティングの基礎知識を学び、それらを確実に使えるようにし、その知識をスポーツその他の実際の分野に応用できるようにすることを目指します。

今日、ビジネス実践のための基礎知識として広く普及しているマーケティングの基本概念を身につけ、その用語を使って自ら語るができるようにすることは、これからビジネスを行っていく上で必須の素養であるといえます。本ゼミは、こうした基礎知識を、スポーツなどの分野に広く応用することを目指しますが、マーケティングの応用分野はスポーツに限定されません。ツーリズムであれ、芸術であれ、あるいは食品やファッション製品や耐久消費財などといった伝統的なマーケティングの分野であれ、幅広いマーケティングの応用分野を視野に入れて、マーケティングとビジネス全体、マーケティングと消費者、マーケティングと社会との関係を考えていきたいと思ひます。

こうした幅広い勉強の中から、卒論のテーマを発見できるようになることを期待しています。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	後期演習の概要 — 基礎から応用へ
第 2 回	基礎概念 (1) マーケティングとは	第 17 回	応用概念 (1) ブランドとは
第 3 回	基礎概念 (2) スポーツとは	第 18 回	応用概念 (2) コミュニケーション
第 4 回	基礎概念 (3) 戦略とは	第 19 回	応用概念 (3) コードモデル
第 5 回	基礎概念 (4) 管理とは	第 20 回	応用概念 (4) コンテキストモデル
第 6 回	基礎概念 (5) 理念 (コンセプト) とは	第 21 回	応用概念 (5) ストーリー
第 7 回	基礎概念 (6) 4P	第 22 回	応用概念 (6) 経験価値
第 8 回	基礎概念 (7) 製品 (モノ)	第 23 回	応用概念 (7) 暗黙知
第 9 回	基礎概念 (8) サービス	第 24 回	応用概念 (8) 実践コミュニティ
第 10 回	基礎概念 (9) 非営利組織	第 25 回	応用概念 (9) SNS マーケティング
第 11 回	基礎概念 (10) マクロマーケティング	第 26 回	応用概念 (10) 消費文化
第 12 回	ケーススタディ (1)	第 27 回	ケーススタディ (3)
第 13 回	ケーススタディ (2)	第 28 回	ケーススタディ (4)
第 14 回	ゼミ生報告会 (1)	第 29 回	ゼミ生報告会 (3)
第 15 回	ゼミ生報告会 (2)	第 30 回	ゼミ生報告会 (4)

到達目標

- (1) マーケティングの基本概念と論点を理解すること。
- (2) その基本概念を使って、自らの考え方を表現できるようにすること。
- (3) マーケティングの基本概念を、スポーツその他の幅広い実践的分野に応用できるようにすること。

履修上の注意

- ◎演習への出席は必須です。半期5回以上の欠席は不可です。ゼミへの出席を確約できる学生に限り登録を受け付けます。やむをえず演習を欠席する場合は、必ず連絡してください。
- ◎メール、ワード、パワーポイント、チームズなどの使用は必須ですので、使えるようにしてください。

予習・復習

- ◎事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。
- ◎演習の勉強には多くの時間が必要です。特定のテーマについて、自分で調べ、自分で書く時間を確保しなければなりません。そうした時間を確保できるようにしてください。

評価方法

- ◎演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度 (25%)、演習で出された課題の遂行の状況 (25%)、最終期末レポート (50%) によって評価します。
- ◎演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生は、高く評価されます。

テキスト

- テキストは使用しませんが、全体にわたる参考文献は以下の3点です。
- ◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 — はじめて学ぶマーケティング基礎篇 — 』大月書店、2003 年
- ◎薄井和夫『マーケティングと現代社会 — はじめて学ぶマーケティング応用篇 — 』大月書店、2003 年
- ◎中澤真・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017 年

授業概要

3年次の専門演習で企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用した演習を予定しているため、その際にゼミ生の興味関心を整理し、選択肢となる企業数を広げることを目的とする。そこで、2年次の基礎演習では、企業の経済活動に影響を与えているSDGsを理解し、世界が抱えている諸問題を知ることから始める。そのうえで、業界の全体像を概観し、そこでの企業や商製品などをレポートしてもらう。演習は、ゼミ生が何らかの課題についてレジュメを作成し、プレゼンを行う形式を予定している。また、就職活動に備えた準備段階では、自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため、その姿勢が養われるように指導する。

なお、下記の授業計画は2020年度の内容と予定を参考までに示すものであり、2021年度は受講生により業界や企業は変わることになる。

授業計画

第1回	SDGs（持続可能な開発目標）の意義	第16回	夏季休業中の課題のプレゼン
第2回	環境問題の理解	第17回	エンタメ業界①エイベックス
第3回	環境問題の事例	第18回	②ソニーミュージックインターナショナル③エイベックスミュージック
第4回	経済問題の理解	第19回	④ワーナーミュージックジャパン⑤ポニーキャニオン
第5回	経済問題の事例	第20回	食品業界①キューピー
第6回	社会問題の理解	第21回	②カルビー③ブルボン
第7回	社会問題の事例	第22回	④江崎グリコ⑤山崎製パン
第8回	17の目標の理解①	第23回	家電小売業界①ビックカメラ
第9回	17の目標の理解②	第24回	②ヤマダホールディングス③ケーズホールディングス
第10回	17の目標の理解③	第25回	④エディオン⑤コジマ
第11回	17の目標の理解④	第26回	製菓業界の全体像
第12回	ゼネコン業界①大成建設	第27回	①米菓 ②アイスクリーム
第13回	②鹿島建設③前田道路	第28回	③和生菓子 ④スナック菓子
第14回	④三井住友建設⑤五洋建設	第29回	⑤チョコレート
第15回	夏季休業中の課題の説明	第30回	3年次のインターンシップに向けて

また、回数や内容は目安であり、進捗により適宜変更・調整する。また、人数にもよる。

到達目標

- ・質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告ができる。
- ・調べた業界の全体像を知るとともに、就職先として希望する業界や企業を発見する。

履修上の注意

- ・登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するキャリアセンター主催の行事）などを積極的に指示する。
- ・3年次生と合同で学外授業をすることがある。

予習復習

- ・予習：報告レジュメの作成。
- ・復習：課題レポートの作成。

評価方法

- ・演習時における積極的な参加姿勢とレジュメ、および提出された課題といった平常点を重視して評価する。

テキスト

- ・教科書名：『会社四季報 業界地図』 最新版
- ・出版社名：東洋経済新報社

授業概要

この授業では「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、本田宗一郎、石坂泰三など数々の名経営者たち、およびIT業界の現役経営者の経営哲学に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、議論し、考えを深めていく。この過程を通して、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高めると同時に、資料のリサーチ力、整理・分析力、わかりやすく正確に伝える力を鍛えることが目的である。

授業計画

第1回	オリエンテーション(授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明)	第16回	春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する
第2回	世間の「常識」を覆した企業家たち(総論Ⅰ)	第17回	会社とは何か、なぜ働くのか(総論Ⅰ)
第3回	逆境を乗り越えた苦勞人(総論Ⅱ)	第18回	必ず頭角を現す経営者の条件(総論Ⅱ)
第4回	大賀典雄(ソニー)	第19回	土光敏夫(石川島播磨重工業)
第5回	鈴木敏文(セブン&アイ・ホールディングス)	第20回	賀来龍三郎(キャノン)
第6回	本田宗一郎(ホンダ)	第21回	八尋俊邦(三井物産)
第7回	松下幸之助(松下電器産業・現パナソニック)	第22回	石坂泰三(東芝)
第8回	伊藤雅俊(イトーヨーカ堂)	第23回	大谷米太郎(大谷重工業)
第9回	市村清(リコー)	第24回	樋口廣太郎(アサヒビール)
第10回	立石一真(オムロン)	第25回	中内功(ダイエー)
第11回	宮崎輝(旭化成)	第26回	吉田忠雄(YKK)
第12回	安藤百福(日清食品)	第27回	IT業界の新世代経営者——ビル・ゲイツ(マイクロソフト)、スティーブ・ジョブズ(アップル)、ジェフ・ベソス(アマゾン)、セルゲイ・ブリン(グーグル)、孫正義(ソフトバンク)、三木谷浩史(楽天)など
第13回	議論・発表: 以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。	第28回	同上、つづき
第14回	同上、つづき	第29回	同上、つづき
第15回	春期の内容のまとめ	第30回	秋期の内容のまとめ

到達目標

- 1、経営史、企業史の基礎知識を習得する
- 2、自分の考えや意見を分かりやすく正確に他人に伝える力を身につける
- 3、著名な経営者、創業者たちの人生を振り返ることで、自分の人生目標を考える

履修上の注意

- 1、報告者は毎回分担内容をきちんと準備し、確実に発表すること
- 2、授業中の居眠りやスマホいじりはマイナス評価になる(認められる場合はスマホによる検索が可能)

予習・復習

報告者でなくても予定の内容を通読してください。

評価方法

出席はもちろんのこと、授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況、期末試験を総合して評価する。

テキスト

テキストは全員分用意してあるので、購入は不要。

授業概要

コロナ禍にある現下の日本および世界では、経済、社会、産業そして企業経営の面で大きな変革が進展しており、新しい経済社会の姿が構築されつつあります。この演習では、日本および世界経済、産業動向、企業経営、社会生活などの分野において現在進行しているトレンドを理解することによって、皆さんが社会人になるうえでの基礎的な知識を身に着けることを目的とします。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	この演習で学ぶこと	第 16 回	企業経営 ―テレワーク―
第 2 回	新型コロナ禍を克服し、経済の再生へ	第 17 回	企業経営 ―ジョブ型雇用―
第 3 回	グローバル経済の動向 ―アメリカ―	第 18 回	企業経営 ―ビジネスと人権―
第 4 回	グローバル経済の動向 ―EU―	第 19 回	企業経営 ―脱・株主主権論―
第 5 回	グローバル経済の動向 ―中国―	第 20 回	企業経営 ―柔軟な働き方―
第 6 回	グローバル経済の動向 ―東アジア―	第 21 回	デジタルトランスフォーメーション
第 7 回	産業動向 ―自動車業界―	第 22 回	教育改革
第 8 回	産業動向 ―循環経済へのシフト―	第 23 回	プロスポーツ興行
第 9 回	産業動向 ―観光業界―	第 24 回	少子化・高齢化と社会保障
第 10 回	産業動向 ―物流ロボット―	第 25 回	地域の再生
第 11 回	産業動向 ―食糧自給―	第 26 回	災害に強い街づくり
第 12 回	産業動向 ―ヘルスケア―	第 27 回	気候変動の問題にどう取り組むか
第 13 回	産業動向 ―次世代型社会システム―	第 28 回	再生可能エネルギー
第 14 回	産業動向 ―シェアリング業界―	第 29 回	企業の環境経営
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

日本および世界経済、産業動向、企業経営、社会生活などの分野における基本的な知識や考え方を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

テキストの指定された箇所を事前に読んで理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

- ・教科書名：『2021 年 日本はこうなる』
- ・著 者 名：三菱UFJリサーチ& コンサルティング（編）
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出 版 年：2020 年 11 月 ISBN 978-4-492-39658-2 本体 1,600 円＋税

授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なのでしょうか。多分にその要因はあるかとは思いますが、しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。
本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	回帰分析の方法 1
第 2 回	コンピューターの機能 1	第 18 回	回帰分析の方法 2
第 3 回	コンピューターの機能 2	第 19 回	回帰分析の方法 3
第 4 回	EXCEL の機能 1	第 20 回	回帰分析の方法 4
第 5 回	EXCEL の機能 2	第 21 回	回帰分析の方法 5
第 6 回	EXCEL の機能 3	第 22 回	回帰分析によるモデル分析 1
第 7 回	表の作成と計算 1	第 23 回	回帰分析によるモデル分析 2
第 8 回	表の作成と計算 2	第 24 回	回帰分析によるモデル分析 3
第 9 回	表の作成と計算 3	第 25 回	回帰分析によるモデル分析 4
第 10 回	表の作成と計算 4	第 26 回	回帰分析によるモデル分析 5
第 11 回	表の作成と計算 5	第 27 回	回帰分析による予測 1
第 12 回	適切なグラフの作成 1	第 28 回	回帰分析による予測 2
第 13 回	適切なグラフの作成 2	第 29 回	回帰分析による予測 3
第 14 回	適切なグラフの作成 3	第 30 回	回帰分析による予測 4
第 15 回	適切なグラフの作成 4	第 31 回	まとめ（授業内容の確認）
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

到達目標

経営現象や経済現象を理解するためには、データを適切に分析し、的確に解釈することが必要である。本講義では、そのために必要とされるデータ処理ができるようになることが到達目標である。さらに、パソコンでデータ処理をすることによって、コンピューターが社会において果たしている役割についても、理解してもらいたい。

履修上の注意

「基礎」演習とはいえ、あるいは「基礎」演習ゆえ、今後の専門科目を学ぶ上で基礎的な思考法を取得するためには、欠席、遅刻などは許されない。目に余るようなら、単位は永久に与えられることはない。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。

企業経営・経営戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

プレゼンテーションとグループワークを行いながら、読解力・コミュニケーション力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

第 1 回	春期概要：経営戦略の事例を学ぶ	第 16 回	秋期概要：発想力と企画力を鍛える
第 2 回	ケース 1：ストライプインターナショナル	第 17 回	ブレインストーミング①
第 3 回	ケース 2：すかいらく	第 18 回	ブレインストーミング②
第 4 回	ケース 3：TOTO	第 19 回	逆ブレインストーミング①
第 5 回	ケース 4：幸楽苑	第 20 回	逆ブレインストーミング②
第 6 回	ケース 5：ハイデイ日高	第 21 回	製品・サービスの修正①
第 7 回	ケース 6：パーク 24	第 22 回	製品・サービスの修正②
第 8 回	ケース 7：コマツ	第 23 回	製品・サービスの組み合わせ①
第 9 回	ケース 8：富士重工	第 24 回	製品・サービスの組み合わせ②
第 10 回	ケース 9：富士フィルム	第 25 回	逆転の発想①
第 11 回	ケース 10：ヤマトホールディングス	第 26 回	逆転の発想②
第 12 回	ケース 11：ソニー	第 27 回	新製品・新サービスの企画①
第 13 回	企業研究①	第 28 回	新製品・新サービスの企画②
第 14 回	企業研究②	第 29 回	新製品・新サービスの企画③
第 15 回	企業研究③	第 30 回	新製品・新サービスの企画④

到達目標

- ・一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- ・企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。
- ・アイデアの発想法の基本を身につける

履修上の注意

- ・授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- ・積極的な姿勢・発言を求める。

予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。

復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

評価方法

読解力・文章力・発言力の向上により評価する。

テキスト

授業内で指定する。

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分であるとの認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体現したものです。

基礎演習では、教養演習や1年次の講義を通して修得した経営学と日本経済の知識をさらに発展させることを目的としています。前期は日本経済の特質を財政、貿易、金融等について考察し、後期は経営学の知識を、基本文献に基づいて確固たるものにします。前期、後期の最終講義は演習のまとめを行います。

授業計画

第1回	ガイダンス ―目的、方法、評価等―	第16回	組織の構成
第2回	日本の財政(1) ―財政学の基本概念と財政の役割―	第17回	組織の設計
第3回	日本の財政(2) ―財政の仕組み―	第18回	企業統治
第4回	日本の財政(3) ―財政の歴史―	第19回	資本の構造
第5回	日本の貿易(1) ―貿易論の基礎―	第20回	雇用の構造
第6回	日本の貿易(2) ―自由貿易原則と制度対応―	第21回	経営戦略の基礎
第7回	日本と国際金融(1) ―外国為替市場―	第22回	競争と差別化
第8回	日本と国際金融(2) ―国際通貨体制―	第23回	経営資源の配分
第9回	日本と国際金融(3) ―国際金融実務―	第24回	人材マネジメント
第10回	日本の農業 ―日本農業の特徴と農業政策―	第25回	インセンティブ
第11回	日本の地域経済(1) ―地域経済学の基礎―	第26回	計画と管理
第12回	日本の地域経済(2) ―地域経済の活性化―	第27回	経営理念
第13回	日本の環境問題 ―環境経済学の基礎―	第28回	リーダーシップ
第14回	日本の社会保障 ―社会保障制度の概要―	第29回	経営者の職能
第15回	演習のまとめ	第30回	演習のまとめ

到達目標

本演習では、教養演習や1年次の講義を通して修得した経済学・経営学の知識をさらに深めることを目的とします。経済学の基礎や日本経済の特質を踏まえて経営学を体系的に学び、専門演習に向けた確固たる基礎学力を身につけることが課題となります。

履修上の注意

演習は講義を中心に進め、テーマごとに議論する方式を採用します。履修者は積極的に議論に参加することが求められます。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行います。

予習復習

前期、後期ともに復習中心とした知識修得を目指します。演習で修得した知識をさらに深めるためにも、経済、経営関連雑誌や新聞に注意深く目を通すことが求められます。

評価方法

前期、後期ともに毎回の講義ごとに出される課題レポートの結果を70%、演習への参画度や取り組み姿勢を30%の割合で評価します。

テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。

授業概要

私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標（夢）実現に立ち向かいます。①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断（決定）」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。基礎演習は、前述①及び②に必要な基礎的、一般的な知識・技術を養成します。税務分野を例に、①及び②の知識・技術を修得します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	レポート構造⑤第 2 章③判断とは②
第 2 回	レポート一般事例の学習①：読解	第 17 回	レポート構造⑥第 2 章④判断とは③
第 3 回	レポート一般事例の学習②：読解	第 18 回	租税法の基本原則と判断基準
第 4 回	レポート一般事例の学習③：まとめ	第 19 回	証明方法①：演繹法①法的三段論法
第 5 回	レポート一般事例の学習④：発表	第 20 回	証明方法②：演繹法②事実・基準・効果
第 6 回	レポート一般事例の学習⑤：発表	第 21 回	証明方法③：税法事例
第 7 回	税法事例のレポートの学習①：解説	第 22 回	証明方法④：帰納法
第 8 回	税法事例のレポートの学習②：解説	第 23 回	レポート構造⑦第 3 章①税法事例①
第 9 回	税法事例のレポートの学習③：解説	第 24 回	レポート構造⑧第 3 章②税法事例②
第 10 回	税法事例のレポートの学習④：発表	第 25 回	レポート構造⑨第 4 章あてはめ・終章
第 11 回	税法事例のレポートの学習⑤：発表	第 26 回	各章のポイントまとめ序論、1 章
第 12 回	レポート構造①序章	第 27 回	各章のポイントまとめ2 章
第 13 回	レポート構造②第 1 章	第 28 回	各章のポイントまとめ3 章
第 14 回	レポート構造③第 2 章①観点とは	第 29 回	各章のポイントまとめ第 4 章、終章。
第 15 回	レポート構造④第 2 章②判断とは①	第 30 回	総括

到達目標

第一段階の目標：調べるということに慣れること（特定のテーマについて調べるという作業ができる力）
第二段階の目標：その調べたことに基づいて、分析・検討ができて、正しい判断・妥当な判断ができること（何かを調べてその本質・問題点・結論を発見する力）

履修上の注意

自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力が鍛えられますので。配付資料を適宜配付します。出席は必須です。欠席及び遅刻については、理由を事前又は事後に先生にメールして下さい（メールアドレスは後日知らせる予定）。税理士を目指す履修生（特に、税法 2 科目免除を狙う履修生）は特に、履修しておくことを勧めます。

予習・復習

毎回予習復習すべき内容を指示します。頻繁に行うテストの成績を重視しますので、毎日の予習・復習に力を入れて下さい。授業時間が 90 分だとすると、この他に、合計 4 時間程度を、自宅等での予習復習（その内容は、[理解・訓練・実行]することです）に充てて下さい。特に、この授業では、当番を毎回一人決めて、講義のポイントを纏めて、先生に提出（し、全員に配付）するというタスクをゼミ生に順番に（毎回一人ずつ）課す予定です。

評価方法

テスト、レポート等への配点が 80%、授業での発言、貢献等の積極性が 20%の配点です。

テキスト

下記は参考書です。テキストではありませんので、購入の必要はありません。

- 参考書名：『レポート・論文の書き方入門 第 3 版』
- 著 者 名：河野哲也
- 出版社名：慶応義塾大学出版会
- 出 版 年：2014 年第 3 版第 10 刷発行

授業概要

本演習では、受講生には2～3名のチームを組んでもらい、講義内の事例研究に対するグループディスカッションやレポート作成、企業分析のプレゼンテーションなど、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とします。

具体的には、春期は、会社の社会的役割、組織、経営、雇用形態など企業の基礎的な概要を理解する。秋期は、大企業や中小企業がコロナ禍における変化の激しい時代を生き抜くためのビジネスモデルの変革について学び、現実の経営事象を理解する力を身に付ける。また、大企業や中小企業の最新の企業分析を取り上げながら、基本的な内容を重視し、受講生の論理的思考力、判断力、プレゼン力、イノベーション力に必要な分析力、発見力や実行力といった能力の向上を図ることを目的とします。

授業計画

第 1 回	春期演習の概要	第 16 回	秋期演習の概要
第 2 回	企業の社会的役割	第 17 回	企業分析の手法
第 3 回	企業の社会的役割	第 18 回	企業分析の手法
第 4 回	企業の社会的役割の事例研究	第 19 回	企業分析の手法
第 5 回	企業の組織	第 20 回	企業分析の事例
第 6 回	企業の組織	第 21 回	企業分析の事例
第 7 回	企業組織の事例研究	第 22 回	大企業のビジネスモデル
第 8 回	企業の経営	第 23 回	大企業のビジネスモデル
第 9 回	企業の経営	第 24 回	中小企業のビジネスモデル
第 10 回	企業経営の事例研究	第 25 回	中小企業のビジネスモデル
第 11 回	企業の雇用形態	第 26 回	企業分析のプレゼンテーションと討議
第 12 回	企業の雇用形態	第 27 回	企業分析のプレゼンテーションと討議
第 13 回	企業雇用形態の事例研究	第 28 回	企業分析のプレゼンテーションと討議
第 14 回	企業で働くとは	第 29 回	企業分析のプレゼンテーションと討議
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・大企業、中小企業の基本的な戦略、現状、問題点、将来性など、事例研究を通じて解釈できる。
- ・大企業、中小企業の経営を調査分析し、その要点を適切に説明できる。

履修上の注意

- ・受講生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- ・演習中は適宜質問や回答するなど、積極的な態度で出席することを望みます。

予習・復習

- ・各テーマに関連する新聞記事、雑誌記事などをピックアップして、演習内で発表すること。
- ・事例研究においては、レポートの作成を指示する。

評価方法

- ・成績は、演習参加への姿勢・貢献度 30%、事例研究のレポート作成、企業分析のプレゼンテーション 70%により評価する。

テキスト

- ・テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

・この演習は、様々なテーマを通じて経済学、経営学、会計学の基礎知識と考え方を学習・修得することを目的とする。講義ではなく、演習であるので、学生自身の事前の調査、研究と教室での発表、討論を主軸に置いて授業を進めていく。具体的には①専門分野の書籍を読み、現代社会では何が課題とされているのか、解決方法には何があるのかを理解する。②①の後、自分で調査研究を進め、自分自身の論理的な意見をもつ。③②の意見を発表。その後の議論を通じてよりブラッシュアップしていく。

・現時点では教材として「病院」を取り上げ、病院経営（人・モノ・カネ・情報）や医療制度、医療政策を理解しながら日本社会のしくみを学ぶ演習にしたいと計画している（授業の詳細については、4月に埼玉学園大学着任後、この演習を履修した受講生の関心や勉強希望の分野、学習能力を理解してから最終決定したい）

授業計画

第 1 回	ガイダンス；春期の基礎演習の進め方	第 16 回	ガイダンス：秋期の基礎演習の進め方
第 2 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 1	第 17 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 1
第 3 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 2	第 18 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 2
第 4 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 3	第 19 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 3
第 5 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 4	第 20 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 4
第 6 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 5	第 21 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 5
第 7 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 6	第 22 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 6
第 8 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 7	第 23 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 7
第 9 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 8	第 24 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 8
第 10 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 9	第 25 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 9
第 11 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 10	第 26 回	テキスト・資料を用いた報告と議論 10
第 12 回	第 1 回 最終期末レポート発表と討論	第 27 回	第 1 回 最終期末レポート発表と討論
第 13 回	第 2 回 最終期末レポート発表と討論	第 28 回	第 2 回 最終期末レポート発表と討論
第 14 回	第 3 回 最終期末レポート発表と討論	第 29 回	第 3 回 最終期末レポート発表と討論
第 15 回	春期の基礎演習のまとめ (最終期末レポート提出)	第 30 回	秋期の基礎演習のまとめ (最終期末レポート提出)

到達目標

- ・資料の検索方法、プレゼンテーションの方法、レポート資料のまとめ方を学び、習得する。
- ・書物から学習する能力を向上させる。
- ・問題意識の持ち、問題点、課題点を考察、分析する能力をつける。自分の考えを持つ。
- ・発表資料の作成、および発表、プレゼンテーションの能力向上させる（含む、PC ソフト・パワーポイント、エクセル、ワード・PC 操作技術向上）
- ・会議や議論における自分自身の能力（ファシリテーター力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、ディベート力、会議をまとめ、議論を発展させる能力）を伸ばす。

履修上の注意

- ・演習は参加型授業なので、毎回欠かさず出席すること。欠席の場合は事前にメールで連絡。
- ・授業では、積極的に発表、発言、議論をすること。
- ・2021 年 4 月に大学着任予定。教員情報はインターネットでキーワード「福永肇」で検索してください。

予習・復習

- ・テキスト、または取り上げるテーマについて演習前によく読み、理解し、発表の準備をする。
- ・予習、復習共に書籍、インターネットを活用して調べる。自分で調べる能力、技術を大学時代に取得する。

評価方法

・研究発表・プレゼンテーション（30%）、演習での討論への発言＆貢献度（30%）、最終期末レポート（40%）で評価する。

テキスト

演習でのテキストは以下をコアに考えているが、授業で学生と会ってから最終決定を行いたい。いずれにしても演習では多くの本や、配布する資料を読み込んでいく。

- ・『病院のすべてがわかる』、コンパッソ税理士法人著、ナツメ社刊、2017 年：

授業概要

この演習は、データサイエンスの入門的事項を学ぶことを目標とします。社会における様々な課題を解決するには、その課題に関わる領域についての専門的知識が必要ですが、同時に、その課題に関連する多様なデータを収集し、分析し、どのような性質・法則が成り立ち、どのようなことが起きているかを解明し、それに基づく創造的判断が必要になります。このデータ収集・分析・構造理解と価値創造の一連の流れを体系化した領域がデータサイエンスと呼ばれ、日々進化しつつあります。また、データサイエンスの扱うデータは小規模なものから超大規模のものまであり、種類もさまざまです。2年次の基礎演習では、Excel と統計ソフト R を利用してデータサイエンスの入り口を学びます。

授業計画

第 1 回	春期ゼミオリエンテーション	第 16 回	秋期ゼミオリエンテーション
第 2 回	事象・現象と数理モデル	第 17 回	調査票による調査
第 3 回	課題発見と課題解決	第 18 回	調査票のデザイン
第 4 回	調査分析のデザイン	第 19 回	対面調査
第 5 回	Excel を用いた分析 1	第 20 回	フォーカス・グループ・インタビュー 1
第 6 回	Excel を用いた分析 2	第 21 回	フォーカス・グループ・インタビュー 2
第 7 回	Excel を用いた分析 3	第 22 回	データサイエンスとは
第 8 回	Excel を用いた分析 4	第 23 回	グループによる調査分析テーマの設定
第 9 回	Excel を用いた分析 5	第 24 回	アソシエーション分析 1
第 10 回	統計分析ソフト R	第 25 回	アソシエーション分析 2
第 11 回	R の仕組みと使い方	第 26 回	アソシエーション分析 3
第 12 回	R によるデータ処理 1	第 27 回	グループ研究 1
第 13 回	R によるデータ処理 2	第 28 回	グループ研究 2
第 14 回	R によるデータ処理 3	第 29 回	グループ研究 3
第 15 回	R によるデータ処理 4	第 30 回	グループ研究の成果発表

到達目標

データ収集・分析・構造理解と価値創造の一連の流れを理解し、自分で簡単な分析を行えるようになる。

履修上の注意

欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってきました。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。また、グループ学習の形を取りますので、各自が自覚をもってグループの運営に取り組んでください。

予習・復習

予習：テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。
復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献（学習への積極的関与）40%、グループ研究への貢献60%で評価します。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。

授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を企業経営にどのように活用しているかを学ぶ授業です。現代の経営に必要な 経営資源（人、モノ、金、情報）を有効に活用して管理運営することです。その1つである情報を収集し分析し活用することが、企業経営の効率化と競争力の強化になります。この授業の目的は、情報技術について学び、その活用方法を学ぶことです。ですから、最初にコンピュータの基礎や情報通信技術を学び、企業でどのようにコンピュータが使われているかの事例を勉強します。また、発展目覚ましい情報通信技術の最近の注目技術としてAI(人工知能)、IoT（Internet Of Things）も紹介します。

授業計画

第 1 回	情報とは何か、情報化社会について	第 16 回	AI(人工知能)とは
第 2 回	ハードウェアの概要 1	第 17 回	AI がもたらす社会の変化
第 3 回	ハードウェアの概要 2	第 18 回	AI の活用事例
第 4 回	ソフトウェアの概要	第 19 回	AI を触ってみよう
第 5 回	ソフトウェアの種類	第 20 回	クラウドコンピューティング
第 6 回	コンピュータによる仕事の処理形態 1	第 21 回	クラウド AI
第 7 回	コンピュータによる仕事の処理形態 2	第 22 回	クラウド AI を動かそう
第 8 回	社会や個人での情報活用 1	第 23 回	クラウド AI の演習 1
第 9 回	社会や個人での情報活用 2	第 24 回	クラウド AI の演習 2
第 10 回	情報ネットワークの概要 1	第 25 回	クラウド AI の演習 3
第 11 回	インターネットとは	第 26 回	グループで AI を動かそう 1
第 12 回	インターネットの活用	第 27 回	グループで AI を動かそう 2
第 13 回	IoT（モノのインターネット）とは	第 28 回	グループで AI を動かそう 3
第 14 回	IoT と社会の変化	第 29 回	発表会
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

この授業は、ICT（情報通信技術）を企業経営にどのように活用しているかを学ぶ授業です。
この授業の目的は、情報通信技術について学び、理解し、その活用方法を学ぶことです。学習方法として、知識の学習と演習で使ってみることで理解を深めます。

履修上の注意

前半は、座学を中心に ICT の知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノート PC またはタブレットを使用することになります。

予習・復習

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

評価方法

演習時間での参加や積極的な発言とレポート提出及び演習の成果発表などで評価する

テキスト

別途、連絡します。